



初島住彦* : 日本および台湾産のアセビについて

S. HATUSIMA* : Species of *Pieris* from Japan and Taiwan

アセビ属 (*Pieris*) は属を大きく考える人は *Andromeda* (SCHNEIDER, 其他) や *Lyonia* (HANDEL-MAZZETTI) に入れているがここでは別属として取扱うことにした。本属には東亜, ヒマラヤ, 北米に亘つて8種が知られている。この内日本にはアセビとリュウキュウアセビを台湾にタイワンアセビを産する。この三種はいずれも独立種として取扱ってあるが最近三者を比較研究した結果この三者は極めて近い種類で種として区別することは無理でリュウキュウアセビとタイワンアセビはアセビの地理的変種すなわち亜種と見なした方がよいという結論に達した。以下三者の関係について述べて見たい。今三者の各部の主なる特徴を一覧的に示すと別表のようになる。

次頁の表から判ることは、葉形はアセビとタイワンアセビは格別差はないがリュウキュウアセビは多少幅の狭いものが多い。また葉縁の鋸歯についていうとアセビでは下から $\frac{1}{4}$ ~ $\frac{3}{4}$ の部分が全縁で、タイワンアセビでは約 $\frac{1}{2}$ 以下が全縁である。しかるにリュウキュウアセビでは殆んど部分が全縁で上端付近にただ3~5歯を有するだけである。花序はアセビは多少下垂性でやや疎花であるがリュウキュウアセビとタイワンアセビでは上向きで花はアセビより密生する傾向がある。花序が下垂しないといふことは琉球, 台湾産は小枝がアセビより平均して少し丈夫で従って花序の枝も多少丈夫に出来ている関係ではないかと思う。

花冠はアセビとタイワンアセビは壺形であるがリュウキュウアセビは多少鐘形で口部がかなり広く萼片はいずれも狭卵形であるが長さは9 mm 位で前兩者より少し大きい。アセビは琉球, 台湾産のものに比べて少し小さい傾向が見られる。雄蕊の長さは琉球, 台湾産のものがアセビより少し長いようである。果実は形, 大き共に三者区別はない。花序が上向き花が密生する点から見るとリュウキュウアセビはアセビより台湾アセビに近縁であることが判る。このことは琉球列島における台湾—琉球要素の分布様式から見て当然の事のように思われる。

次に各種類の生育状況其他について述べてみたい。

タイワンアセビ 本種の type は台湾の台東の Dairon 山産で早田博士はこれを発表された際ヒマラヤの *P. formosa* と比較し日本産のアセビとの関係については一言も述べてないがこれはヒマラヤ産とは関係が薄くむしろ日本産のアセビに近縁である。台湾ではその後各地で採集され台北, 新竹, 台中, 台南, 高雄の各州から知られている。通常中央山脈の海拔 2600 m 内外の所に知られているが硫黄泉地帯ではかなり低海拔の所まで下降している (例: 陽明山, 草山など)。ヒマラヤ産の *P. formosa* は葉は長さ 10~15cm にも達し葉縁は先端から基部まで一様に微鋸歯があってアセビ系統のものと可成異なるものである。

リュウキュウアセビ これは従来沖縄島北部の国頭村安田山タナガームイ（手長鰻の住む滝の意）海拔 100m 位の所だけに知られ筆者も 1955 年 6 月 24 日同地を訪れよく観察することが出来た。その後教室の迫君等の調査で奄美大島の湯湾岳の横にある慈和岳（680 m）の尾根筋に多産することが判った。このものは大きなものは幹の直径 15 cm に達するものもある由である。花は三者の中では最も大きく、かつ密生するので見ごたえがある。

アセビ 本種は北は宮城、山形の両県から南は屋久島まで分布している。日本全帯を通じて余り変異はない。屋久島産のものには小葉型のものが多く佐竹博士によると東京の同氏宅に栽培されている屋久島産のものは葉の着く角度が内地産のものと異なる由であるが筆者はまだ比較調査をしたことがない。

Pieris japonica D. DON ex G. DON, Gen. Syst. 3 (1834) 832

ssp. **japonica**

Hab. Japan.

ssp. **taiwanensis** (HAY.) HATUSIMA, comb. et stat. nov.

Pieris taiwanensis HAY., Mater. Fl. Formos. (1911) 169; Icon. 2 (1912) 119, f. 14; STAFF in Bot. Mag. 148 (1924) t. 9016; REHD., Man. Cult. Tr. & Shrub. ed. 2 (1940) et Bibliogr. (1949) 530; KANEHIRA, Formos. Trees rev. ed. (1936) 535, f. 495; LIU, Illus. Pl. Taiwan 2 (1962) 978, f. 808; LI, Woody Fl. Taiwan (1963) 685, f. 287

Hab. Taiwan.

ssp. **Koidzumiana** (OHWI) HATUSIMA, comb. et stat. nov.

Pieris Koidzumiana OHWI in Bot. Mag. Tokyo 44 (1930) 57; WALKER et al., Fl. Okinawa (1952) 115

Pieris japonica var. **koidzumiana** (OHWI) MASAMUNE in Sci. Rept. Kanazawa Univ. Part 2, 3² (1955) 301.

HAB. Ryukyus : Isl. Okinawa and Isl. Amami-oshima [(Mt. Ziwadake, alt. 650 m., S. SAKO 4866 (fr.), 5318 (fl.).]

Subspecies	Leaves	Inflorescence	Corolla	Calyx	Stamen	Capsule
<i>P. japonica</i> ssp. <i>taiwanensis</i>	Oblong-obovate to oblong-ob lanceolate, 5-10cm \times 1.4-3 cm, acute, lower half of margins entire	Erect or nearly erect, fairly dense	Urceolate, 7 mm long.	Narrowly ovate, 3.5 \times 2mm	3-4 mm long	Broadly globose, 5-6 mm in diam.
<i>P. japonica</i> ssp. <i>koidzumiana</i>	Oblanceolate to narrowly oblanceolate, 3.5-6.5cm \times 1-2 cm, acutely obtuse, entire except for a few teeth near the apices	Erect, fairly dense	Nearly campanulate, 9mm long	Narrowly ovate, 4 \times 2 mm	3.5-5 mm long	Do
<i>P. japonica</i> ssp. <i>japonica</i>	Oblong-obovate to oblong-ob lanceolate, 3-8cm \times 1-3cm, acute, lower 1/3 to 1/4 of margins entire	Declinate, fairly loose	Urceolate, 6-8mm long	Narrowly ovate, 2.5 \times 1.5mm	2.5-3mm long	Do

Table showing the distinctive characters of the *Pieris* subspecies from Japan and Taiwan.